



炬火を掲げていざ謳う

No.51



# 我々の泉鳥取

2023年7月17日(月)

編集 泉鳥取高等学校閉校記念事業実行委員会

大阪府阪南市緑ヶ丘1-1-10

<https://www.osaka-c.ed.jp/custom91.html>

## シークレット花火

—学校行事相次いで中止の卒業生(43期)に向けて—



2020(令和2)年から全世界を吹き荒れた新型コロナウイルス感染症。3月には安倍晋三首相が全国一斉の臨時休校を指示し、学校への登校はその年の5月に分散登校、通常の授業時間で授業が行えるようになったのが6月になってからでした。

当時3年生だった43期生は、3年生で行う学校行事がほとんどすべて中止となりました。部活動も大きな制限を受け、柔道など対面での競技は練習すらできない状態となり、最終学年の思い出を作ることが大変難しい状態が続きました。

当時の峯近卓美校長は、この状態で卒業する43期生にエールを送るため、卒業式当日の夜、シークレット花火を計画しました。当時の朝日新聞の記事を掲載します。

大阪府阪南市の府立泉鳥取高校で26日夜、「シークレット花火」が打ち上げられた。この日卒業した3年生188人と在校生は昨年以降、新型コロナウイルスの感染拡大で学校行事の多くが中止になった。生徒たちへの励ましの思いを込め、65発が夜空を彩った。

同校の峯近卓美校長が、例年、阪南市内で花火を打ち上げてきた市民団体「はんなんもりあげ隊 be-fi」に提案し、同窓会なども協力して実現した。「密」を避けるため事前に予告はせず、生徒代表らだけが招待された。

峯近さんは「卒業生には夜空に咲く花火のごとく、自分の人生でも花を咲かせてほしい」と話した。

生徒代表としてグラウンドで花火を見た生徒会長の2年、脇川世衣(せい)さん(17)は「とても大きな花火で感動し



た。またみんなで花火を見られる日が来てほしい」と笑顔を見せた。(川田惇史:朝日新聞)

<https://www.asahi.com/articles/ASP2V72ZYP2VPPTB001.html>

峯近校長はアイデア校長というべき人で、老人会と連携して、本校食堂を近隣住民に開放(イズカフェ)したり、国際交流を推進するためイングリッシュ・カフェを企画したり、海外修学旅行を提案したりと、イベントを実施しました。

この花火もまた峯近校長の発案でしたが、秘密保持のため教職員にも告知せず、花火の燃えカスが落ちると想定されていた地域住民の皆さん以外には事前に連絡をしなかったため、住民から警察にも通報が入ってしまいました。

新型コロナのまん延はその後も続き、2023(令和5)年5月に5類に分類変更されるまで、教育活動に大きな影響を与えました。

泉鳥取高校でいえば、この長い自粛のために、部活動が停滞し、新入部員が2年間入部しなかったクラブも多く、機能統合(閉校)の発表もあって現在、ごく少数のクラブが活動することになってしまいました。

